

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1170900359		
法人名	株式会社 サンセット・シニアーズ		
事業所名	グループホームれんげ荘		
所在地	埼玉県久喜市久喜東2-35-5		
自己評価作成日	平成29年3月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社シーサポート		
所在地	埼玉県さいたま市浦和区領家2-13-9		
訪問調査日	平成29年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成14年4月開設。平成23年4月1日より、前住所地より徒歩3分のところのM&Mビルに移転。小規模多機能型居宅介護事業所併設。また、同ビルは外壁はもとより、全館(壁・床・天井)に抗菌・抗カビ・防臭・防汚に優れたGEOTECT(ジオテクト・SIAAマーク取得)により、処理されており、感染症予防・衛生管理に優れた施設となっています。15年の経験と在籍期間の長い職員も多く、家庭的な雰囲気の中、ご利用者様も穏やかに過ごされています。地域の方々との交流も徐々に増えており、さらに連携を深め、住み慣れた地域での生活が継続できるよう支援していきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

●音楽会をはじめ、グループ内の他事業所と合同の運動会やクリスマス会など多様な催しを実施し、利用者の楽しみとなるよう取り組んでいます。また本年度は、長年の協力への感謝から遠方より郷土の太鼓踊りを披露してもらいました。地域も巻き込んだ一大イベントは、貴重な機会となりました。  
●職員同士が話しあえる雰囲気を作られており、連携した支援を可能としています。専門家に対して職員が相談できる仕組みが整えられており、働きやすい職場の醸成に努めています。  
●身体拘束廃止委員会を開催し、職員間での討議がなされています。本年度は「おむつの止め方」について話し合いがなされており、利用者の安全と快適について探究に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年、従業員全員で昨年の反省を踏まえ、年間目標を立て、運勢推進会議で発表し、実行している。「気づき」をテーマに挙げ、申し送りやミーティングに生かし、共有している。	運営理念をはじめ支援方針を事務室およびフロアに掲示し、職員への周知を図っている。職員の持つ支援に対する偏見や誤解を解きながら利用者に資するケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、防災訓練やお祭り等の地域の行事に参加している。また、運動会には近隣の幼稚園児に参加していただき、参加賞をご利用者一人ひとりが手渡しし、大変喜ばれた。	法人グループにおける運動会には近隣の幼稚園が参加するなど温かな交流が続けられている。地域の方々とは散歩時等挨拶を交わすなど顔なじみとして認識されるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の中学校の体験学習を毎年受け入れており、介護現場で実際にご利用者様と交流し、高齢者や認知症の理解の一助となるよう協力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、区長や民生委員、久喜市、包括支援センターから情報や意見を取り入れ、地域の行事に参加したり、四季折々のイベントに役立てている。	行政、地域包括支援センター、民生委員、区長および多くの利用者に参加をもらい開催がなされている。防災や熱中症など多岐に渡るテーマについて話しあわれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	二か月に一回運営推進会議の開催を市の介護福祉課にお知らせし、介護福祉課の参加をお願いし、できるだけ運営推進会議に来ていただけるように働きかけている。	行政とは運営推進会議への招待・メールでのやりとりを通して関係を構築している。近隣事業者とも各種交歓会等への参加により情報収集にあたっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	従業員全体会議や勉強会等定期的にミーティングを行い、その具体的内容を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアについて事務室・フロアに掲示がなされている。委員会による討議・勉強会の開催を通して虐待防止への意識醸成が図られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月25日に行われる全従業員を対象とした会議にて報道等のなされた事例の検討や各事業所単位で研修を行っている。特に精神的虐待防止の取り組みとして言葉遣いや礼儀を重んじている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生活保護制度や障害者総合支援などから制度について取り組みを始めている。市町村の生活保護の担当の方に不明な点は相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書・重要事項説明書を元の一つ一つ説明し、契約していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口の掲示や運営推進会議への出席・ご家族と面会後にはご家族に職員に言いづらいこと等なかったか、御利用者本人の要望を聞いている。	面会時には家族とコミュニケーションを図り、要望の聴取に努めている。フロアには苦情相談体制について掲示し、いつでも受け付けることができることを発信している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会社として毎月11日に管理者会議・25日に全職員を対象とした会議を行っている。25日の会議の前に事業所内で会議を行い、職員の意見が反映されるようにしている。	会議前には職員同士が話し合い、管理者に上申する機会が設けられている。小規模な施設のメリットを最大限活かし、職員同士が何でも話しあえる雰囲気と体制が構築されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月11日・25日に発言の場を設けており、状況の把握に努めている。また、運動会やクリスマス会といった行事の責任者等を担当するなどし、日々の業務で得られない達成感を味わえる場を作っている。また、月に一度臨床心理士によるカウンセリングの機会も設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画に基づき、事業所内研修や勉強会を個々の経験に応じてテーマを決めて実施している。社外研修にも積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や社会福祉協議会、医療機関が主催する地域包括ケアを推進する研修や情報交換会等に積極的に参加するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の希望や意向を把握しながら希望に沿った支援の実現に向けて本人、家族と話し合いながら行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安の解消に努め、家族や本人の要望に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。面会時には、意向や要望を聞く機会を設けて、コミュニケーションに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時には本人の状況をよくお聞きしたうえで、介護タクシーや訪問歯科診療等、他のサービスも含めたその時必要なサービスを見極めながら支援の対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる能力や職歴などを考慮しながら、能力を発揮させる場面づくりや、活躍の機会を作れるように支援、ともに助け合いの場面を作れるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院の依頼や、外出の機会、買い物の支援等家族と話し合いながら、本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と一緒に外出したり、デイサービスをご利用したり等、入居以前の関係が途切れないよう支援に努めている。	行きつけの商店・散歩する公園等行きつけの場所が出来ている。併設の小規模多機能型居宅介護支援の利用者ともイベント等にて交流がなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常的にお互いの部屋を行き来する等、利用者同士で支えあい、励ましあい、出来ないことの声かけを職員へ伝えたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院した場合はお見舞いに行くなどしている。自宅に帰られた場合でも、担当のケアマネジャーに情報を提供し、安心して暮らせるよう支援している。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりにあった暮らし方の希望を日常のなげない会話や小さなサイン、表情や行動からヒントにし、十分に希望を聞く努力をし、検討している。	日々傍らで支援している経験を活かし、利用者の表情や健康状態の確認から変化を逃さないよう努めている。利用者の反応を見ながら利用者の心地よさや快適さを見極めた細やかな支援に取り組んでいる。	重度化した利用者に対しても声掛けをし、活性化を促進する支援となるよう指導にあたっている。「放置しない・妥協しないケア」の継続と発展が期待される。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人との面談やこれまでのサービス等についてはサマリー等を出来るだけいただくようにし、把握に努めている。また、今までのことを思い出してもらえるよう意識してコミュニケーションをとり、できるだけ入居前の生活に近づけるよう努力している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの習慣や特徴などを全職員が把握し、サービスに当たれるようミーティングを行い、状態の変化については申し送り時に伝達し、継続的に把握できるようにしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、本人に介護計画について説明し、希望や要望を確認し、反映させるようにしている。また、各職員が、生活の中の小さなサインも見逃さないように心がけている。変化が生じた際は職員ミーティングや本人、家族との面談等により、現状に即すよう作成している。	モニタリング・担当者会議の結果を踏まえながら計画が作成されている。利用者・家族・医師の意見を総合し、利用者本位の支援を実践している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、申し送り事項など、情報を共有し、介護計画に生かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が病院へ付き添えない場合は、介護タクシーと連絡調整し、受診につなげている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通じて区長様や民生委員の方々からの情報、協力により地域の行事(夏祭り、防災訓練等)に参加させていただき、防災、防犯等の情報もいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員が家族と一緒に通院に同行し、医師に情報提供を行ったり、手紙を書いて家族に伝えていただき、家族より医師からの指示を伝えて頂いたりして連携に努めている。	協刀病院による任診に偏ることなく、通院についても「外出機会」「訴える力を呼び起こす機会」として重要視している。またホーム内に看護師・准看護師を配置するなど、健康および安全管理の体制整備に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員の中に看護師・准看護師がおり、いつでも相談し健康管理に努めている。また、必要に応じ、訪問看護師にも訪問していただき、アドバイスを頂き受診につなげたことがある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護情報の提供を行い、定期的に面会に行き、SWや看護師・医師・家族と早期退院に向けて相談・情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化と看取りに関する指針を入居時に確認と説明がなされている。本人・家族の意向や希望を確認しながら、医師、看護師、関係者と共に話し合いを行い検討し状況に応じていく。	契約書に重度化と終末期の支援についての方針を付しており、入居時に説明がなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の勉強会を定期的に行い、緊急時マニュアルを整備している。AED設置済み。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼間想定1回、夜間想定1回避難訓練を実施している。また、自治会主催の防災訓練へも参加し、地域の方に認識いただきつつある。今年度は水害等を想定した避難所までの避難訓練を実施した。	地震・火災想定のほか、水害の避難訓練が実施されている。被災時の避難経路や警報システムの確認がなされるなど災害対応への注力が理解できる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとり一人の人格の尊重は、当社の運営理念として職員が周知徹底し、人権の尊重、個人情報保護について年間研修計画に基づき研修を行い丁寧な声掛けを実践している。	声掛けの方法については、親しさと礼節のバランスを図り、職員同士が互いに注意しあいながら利用者の尊厳を保持できるよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その日のお茶の種類を選んだり、入浴や家事等を自己決定できるように声掛けを行い、しぐさや表情などからも本人の思いを希望を考慮しながらケアを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の希望にそった、その日の日課を支援できるように、柔軟な対応を行えるよう職員は対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室に鏡や本人専用の髭剃り機を居室に用意したり、以前から使っていた化粧水を用意したり、好みが変化したことを家族に伝え衣類を用意して頂いたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に合わせた食事の準備や片付けを負担のない範囲で協力して頂いている。ひとり一人の好みを職員は周知しており、支援している。	食事準備等への参加については、利用者の能力を鑑みた手伝いを促している。安全とのバランスに配慮し、適切な支援となるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスのとれた食事を残さずに食べて頂けるように一人ひとりの状態に合わせた形態や好み、習慣を職員は周知し、共有しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの研修や歯科衛生士さんの指導の下に食事の前の嚥下体操を取り入れ、全員が食後の口腔ケアを能力に合わせて実行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄パターンを把握し、一人ひとりの対応を検討し、本人の状態を見ながら、取り組んでいる。	日々の排せつの記録を確認し、状態や間隔を考慮した誘導にて排せつ支援にあたっている。また日中と夜間で装具を変えるなど自立の意識を育てよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分管理や毎日の運動を声掛け、日々のメニューを把握しながら、個々の排泄管理を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日の設定はあるが、日勤帯の時間内で本人の希望に沿った配慮をしている。	入浴時間の長さや方法については利用者の意向と身体状況を鑑みて支援を実施している。拒否をする利用者に対しても声掛けを工夫し、清潔が保持されるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後の休息や夜間の個々の睡眠のパターンに合わせた習慣に合わせた支援を心掛けて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確実に服薬ができるよう、能力に合わせて支援している。服薬管理を行い管理されている。副作用についても把握しながら医師に情報提供されている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や嗜好を把握しながら、喜びや、張り合いが持てるように支援している。楽しみとなる声掛けや励ましを行い、ともに喜びや達成感を味わえるよう、支援されている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に応じ、近くの公園等への散歩や買物などの支援をしている。また、桜だけでなくアジサイ等近隣への花見会や地域の夏祭り等へ参加するなど支援している。	近隣の公園への散歩など「日常的に・積極的に」外出支援ができる職員の配置に配慮している。グループ内の他事業所と合同にてクリスマス会や運動会など楽しめる外出行事が企画・実行されている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解を得た方はホームでお預かりし、本人の欲しい物など、買い物と一緒にいき、小遣い帳で管理、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	内線子機電話による自室での電話の支援、手紙の投函などを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季の花を飾るほか、季節に応じた飾りつけ(こいのぼり、七夕飾りや風鈴、など)をしている。また、室温、湿度をチェックし、空調の管理、支援を行っている。	各所に設置された温度計にて管理し、快適な室温の維持に努めている。花壇の活用・制作の実施などを推進していく声が職員から聞かれており、意欲的な取り組みが更なる充実に繋がることが予想される。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間で一緒にくつろいだり、お互いの部屋を歩き来し、おしゃべりしたり、写真を見たり、思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には仏壇・机・鏡台・本棚など使い慣れたものを持ち込むことができ、本人が居心地よく過ごせるよう援助している。	リビングにて集うことが多い中、テレビを見たり、片づけをしたりと思い思いに過ごす居室が提供されている。馴染みの家具の持参・写真等の掲示により自分らしい空間の演出がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床は段差が無く、台所がリビングの中心部にあり、利用者の動向が把握しやすい。トイレに近い居室の希望を受け入れ、夜間はトイレの照明をつけたままにし、安全にトイレができるようにするなど、一人ひとりの状況、その日の体調などを把握し、極力出来ることは自分でやっていただくよう支援している。		